

市長が行く

不発弾とその処理

No.87

茂原市長 田 中 豊 彦



今 の 若い人は知らな いかも しれま せんが、私 の 青春 時代、「戦争を 知ら ない子供たち」という 歌がはやりま した。それはある意味での 反戦歌、戦争がないことの大 きさをうたつたものだつたよ うに記憶して います。

思え ば 第二次世界大戦後、70年余の月日が流れ、この日本 の国では 戦争を 知ら ない世代の方 が 多く なりました。しかし、戦争の 遺した爪痕 は、いまだに確かに 存在し、昨年12月21日、上林で米軍 の落とした不発弾が見つか りました。戦時中、この茂原市には、海軍の航空基地 がありま した。今 の三井化 学のところのまっすぐな道 が滑走路だつたと聞きます。ここからゼロ戦も飛び立つていったことを、私は大学時代の恩師から聞いたことが あります。終戦のあの玉音放送のほんの数時間前にこ こ茂原から飛び立つて散つた多くの若者がいたことを、

そのゼロ戦部隊の生き残り である恩師は語つてくれま した。航空基地があつたの ですから米軍もかなりの攻撃をしたこと でしょ う。不発弾が見つかつても不思議 はありません。

不発弾の処理は、関東甲信越に いては自衛隊の朝霞駐屯地に処理専属の部隊 があり、日々活躍をしていま す。今回 は 不発弾が見つかつてから、ありがたいことに、異例のスピードで対処していただきま した。私も不発弾の処理に 関する協定書を交わ ましたが、そこにはありとあらゆる爆弾があり、不測の事態が起きないよう、実物の爆弾を使つた模擬の処理訓練を何度も行つて いるとのことでした。

今のところ失敗したこと はないとのことでし たので、心強い限りでし たが、相手は爆弾ですか ら、終わるまでは不安もあ りました。当日は

半径150mの危険区域を設け、地域住民の方々には避難をしてもら い、車両も通行止めとしました。不発弾を処理するため に、深さ2mの穴を掘り、その周りに4mの高さまで土のうを積み上げ、信管を抜き取る作業をして いただきま した。この信管がついて いると危険なため、自衛隊に応援要請をしたのですが、危険な作業に身を挺してあたつてくださる皆さんには、本当に頭の下がる思ひでした。

そして私たちが見守る中、信管は無事に抜くことができ、問題の不発弾は富士の演習場に爆破処理されるため運ばれていきました。事故もなく処理が終わつて、本当にほつといたしました。ここに改めて自衛隊の皆さんに、心から感謝と敬意を表した いと思 います。市民の皆さんもご協力ありがとうございました。